

第 17 回最上川水系流域委員会 議事概要

日 時：平成 25 年 9 月 20 日（金）14:00～16:10

場 所：山形テルサ 1 F 大会議室

◆ 「最上川総合水系環境整備事業」事業再評価

- ・ 環境整備事業が各地で行われるようになって、評価され、好評を得ており、住民もいろんな形で参加し、恩恵にあずかっている。一方で、事業が行われる中で、小さな生物が居なくなる、自然の移ろいが肌で感じられなくなったりすることも、忘れてはいけないと思う。
- ・ 危ないから近寄らないとなると、ゴミや水質悪化につながるが、多くの方が川に行く、川を身近に感じる事が非常に重要であり、この事業は有効じゃないかと感じている。
- ・ フットパスやかまづづくりが進められており、最上川が身近になったと感じているが、整備した環境をもっと活用していけたらと思う。
- ・ 情緒とか風情を活かすような環境整備も大事じゃないかと思う。
- ・ 水辺の整備を考えると、地元の人がある場所をいかに愛しているかが大事であり、町を良くしようという、まちづくり活動を上手く推進できるものができると思う。
- ・ 最上川の環境整備箇所は 24 箇所ある。環境整備は各地域の熱意、地元の声が無いと進められないので、他に比べると熱心に川のことを考えていると言えると思う。
- ・ 山と川はひとつながりであり、山の整備と川の整備は連携して行う必要があると思う。
- ・ 整備された内容について、県民の中には知らない方がまだいっぱいいると思うので、もっと PR して、多くの方に利用してもらうことも大変重要と思う。
- ・ 環境整備により、いろんな人が利用するようになったが、人気はまだ少ないように思うので、管理人のような人がいることにより人気を増やし、子供同士で遊べるような環境にして欲しいと思う。

◆ 「最上川中流消流雪用水導入事業(横山地区)」事後評価

- ・ これだけ効果が上がって、高齢化率も進んでいるので、横山地区以外にも適地があるように思う。
- ・ 山形県のような雪の多い地域では、今後もこの事業をどんどん進めていただきたい。
- ・ 流雪溝への排雪は、地区ごとに時間をずらして利用するなど、住民のルールも重要。
- ・ 数値による算定基準に入らないが、「隣との関係でいがみ合いが無くなった」とか、「穏やかに近隣と過ごせる」など結果として、とてもいい心の効果であり、これも費用対効果であると思う。
- ・ 大きな川の河川整備も大事だが、高齢化もどんどん進み、消流雪用水への活用など、小さな水路の整備も大事になってくると思う。

◆ 最上川水系河川整備計画（大臣管理区間）の進捗状況について

- ・ 河川整備に関する要望、提言については、前回の整備事業の再評価でいただいたので、今後の整備計画についてもがんばってやっていただきたい。

◆ 最上川水系河川整備計画（知事管理区間）における平成 25 年 7 月洪水の概要について

- ・ 各河川における今回の被害の早急な復旧をお願いしたい。
- ・ 中小河川は非常に危険をはらんでいるため、雨量と水位の関係を把握し、データとソフトの運用を是非やって欲しい。
- ・ 住民がリスク判断できるような資料を提示することで、危険な時にはすぐに対応ができると思うので、そういう防災活動の啓発はやっていかないといけない。